

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】令和 3 年 1 月 14 日 (2021.1.14)

【公開番号】特開 2019-103669 (P2019-103669A)

【公開日】令和 1 年 6 月 27 日 (2019.6.27)

【年通号数】公開・登録公報 2019-025

【出願番号】特願 2017-238879 (P2017-238879)

【国際特許分類】

A 6 3 B 53/04 (2015.01)

A 6 3 B 102/32 (2015.01)

【F I】

A 6 3 B 53/04 B

A 6 3 B 102:32

【手続補正書】

【提出日】令和 2 年 11 月 30 日 (2020.11.30)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 1】

ゴルフクラブヘッド 1 はウッド型のゴルフクラブヘッドであり、中空体をなしている。中空体の周壁が、フェース部 1 1、クラウン部 1 2、ソール部 1 3 及びサイド部 1 4 を構成している。フェース部 1 1 は、その表面がゴルフボールの打撃面を形成する。クラウン部 1 2 はゴルフクラブヘッド 1 の上部を形成する。ソール部 1 3 はゴルフクラブヘッド 1 の底部を形成する。サイド部 1 4 は、ソール部 1 3 とクラウン部 1 2 との間の部分を形成する。ゴルフクラブヘッド 1 はシャフトが挿入されるホゼル部 1 5 を備える。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 7】

模様 2 3 は、ゴルフクラブヘッド 1 の意匠性向上や、フェース部 1 1 の表面の粗さ調整或いはアドレス時にゴルフクラブが目標方向とフェース部 1 1 の向きを確認するための指標として形成される。本実施形態の場合、模様 2 3 は d 2 方向に延びる直線としており、スコアラインの様なマークとなっている。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 1】

本実施形態のゴルフクラブヘッド 1 は、細溝 2 1 の幅 W 1 及びピッチ P が同じであり、こうした細溝 2 1 を形成するためには、精密な加工精度が要求される。しかも、フェース部 1 1 はバルジとロールを有しているため、更に精密な加工精度が要求される。そのためにはフェース部 1 1 がしっかりと固定されなければならない。本実施形態では、フェース部材 3 を本体部材 2 に接合する前に細溝 2 1 の加工を行うこととし、フェース部材 3 のみ

をNCフライス盤に固定して加工を行う。ゴルフクラブヘッド1は、その周面が複雑な曲面を有しており、フェース部材3を本体部材2に接合した後に細溝21の加工を行う場合、その固定が容易ではない。フェース部材3単体であれば、その固定も比較的容易である。特に、フェース部材3の接合面（本体部材2に接合される部分）の大部分が同一面上にあれば、その固定が更に容易になる。本実施形態では、フェース部材3のうち、ホゼル部15の周辺に接合される部分を除いて接合面が同一面上に位置しており、その固定を容易なものとしている。